

市民大学事業の再構築について⑨

1 市民大学事業とは

(1) 目的

市民大学事業は、市民が主体的かつ継続的に学習することを通じて、まちづくりに欠くことのできない市民力の創出を目的として、「あなたを励まし、地域を育てる」を基本理念に実施している学習事業である。

4つの学習領域（※1）の頭文字を取り、市民大学の愛称名を「HATS」としている。HATSの名称には、市民大学で多くの市民が「学びの中で何かハッと気がついて」もらえるようにという意味が込められている。

※1 Humanity（人間性）、Art & Literature（芸術及び文芸）、Technology & Science（技術及び科学）、Sports & Health（スポーツ及び健康）

(2) 学習領域と実施講座

1993年の開設以来、4つの学習領域に配慮しながら、実施する講座の内容は見直しが行われてきている。

①Humanity - 人間性（ふれあい人間学：市民の社会参加と交流）

現行講座	まちだの福祉、人間学
過去講座	まちだ市民国際学、共に生きるまち・人、新しい家族論、みんなのまちづくり学、まちだ学、こころを伝える手話の世界
（特別講座）	自分のまちのつくりかた入門、まちのデザイン入門、誰にもやさしい安全なまちを考える、映画と講演『アイ・ラブ・ピース』、もしものときの市民学、国際貢献と憲法九条、生涯学習コーディネーター養成講座

②Art & Literature - 芸術・文芸（遊々創造学：遊び心で想像する文化）

現行講座	町田の歴史
過去講座	まちだの文芸・芸術、陶芸講座、まちだ市民史学、まちだの考古・考現学、町田の郷土史

③Technology & Science - 技術・科学（生き生き技術学：伝承から先端技術まで）

現行講座	多摩丘陵の自然入門、環境学
過去講座	くらしに生きる法律、オンライン講座、多摩丘陵学・自然論、まちとくらしの環境講座、まちだ市民環境塾
（特別講座）	女性のための起業講座、インターネット入門講座

④Sports & Health - スポーツ・健康（心と体の元気学：心身の健康生活を応援）

現行講座	“こころ”と“からだ”の健康学
過去講座	心と体の元気学、夏休み器械運動教室、リズム水泳教室

(3) 講座の特色

市民大学の講座の主な特色は以下①～③のとおり。

①プログラムの基本的な方針

- ・より多くの市民が関心を持つよう、講座内容及び講座の実施方法を工夫する。
- ・地域づくりや地域文化の創造に主体的に参加する人材育成を意識し、町田市
の地域課題や特性を盛り込んだプログラムとする。
- ・受講後も学習を継続できるように、学習サークルへの参加や、生涯学習セン
ターの他の事業への参加を促すプログラムとする。

②実施方法

- ・①が達成できるよう、原則、複数回のコース制を前提として実施

③講座の決定方法

- ・プログラム委員と生涯学習センター職員が内容を検討し、町田市教育委員会が
決定

2 再構築の背景・課題 (第2回)

生涯学習センターの発足から4年経過した2016年3月に、町田市生涯学習セ
ンター運営協議会(第2期)が「市民大学再構築に関する検討報告書(以下、「検討
報告書」という。)」を取りまとめている。検討報告書にある、市民大学にかかる課題
の概略は以下のとおりであり、事業の再構築が求められた。

(1) コンセプトについて

- ・「あなたを励まし、地域を育てる」というコンセプトのうち、市民ニーズを重視
した「あなたを励ます」型の学習は当初の目的を果たした。
- ・しかし、市民活動やボランティア養成を重視した「地域を育てる」型の学習は、
プログラムづくり、学習の循環、出口戦略が不明瞭である。
- ・地域課題を明確にし、活動に結び付く「市民社会型」の学習の在り方を検討する
時期に来ている。

(2) 応募者について

- ・応募者の年齢が高いことは、学びに熱心な高齢社会の反映であるが、「ことぶき
大学」との差別化が難しくなっている。
- ・このような状態が続くと、地域社会や地域文化を担う次世代の人材を生み出せな
くなる可能性がある。

(3) プログラム会議について

- ・プログラムの内容検討を任されている「プログラム会議」に、講座づくりの指針
が示されていない(20年以上続かなかで、明確にされなくなってきた)ため、
従来の枠組みを超えた新しいプログラム作りが難しい状態にある。

(4) 講座の新設・廃止等について

- ・生涯学習センターへの移管以降、市民大学講座の新設、廃止等の意思決定が曖昧

になっている。

- ・生涯学習センター運営協議会、プログラム委員、担当するセンター職員との意思疎通が不十分であり、役割分担が明確とはいえない。

3 整理が必要な内容

前述の背景・課題を受けて生涯学習センター運営協議会に意見を伺いながら、検討していくことを以下のとおり整理した。

(1) まちだ市民大学HATSの事業目的の整理、事業目的に沿ったプログラムの方向性の検討

市民大学事業は、開校から30年以上制度の見直しをしておらず、生涯学習センターの他の講座事業との棲み分けも曖昧になっており、市民大学の現況を確認した上で、時代に即した市民大学事業となるよう事業の目的やプログラムの方向性を検証、整理する必要がある。

(2) 市民ニーズを収集する仕組みの検討

市民意見を収集し、プログラムに反映するための「プログラム委員制度」について、委員の硬直化など制度疲労を起こしている面もあり、市民意見の収集方法やプログラム委員と職員の役割分担についての検証、整理する必要がある。

(3) 人材育成に係る取り組みの検討

市民大学の修了生の活動については、創設当初から自主サークル化、団体結成を主眼としており、実際に多くの修了生団体が結成されてきた。ただし、現在は受講者の意識変化や高齢等もあり、結成される団体数は減少傾向にある。一方で、学校のコミュニティスクール化や、町内会・自治会をはじめとする地域団体などの組織率の低下もあり、地域の担い手不足の解消が課題となっている。こうした状況下で、市民大学における人材育成はどのようにあるべきかについても検討する必要がある。

4 再構築の位置付け

今回の再構築は概ね3年間で視野に入れた、市民大学事業の現状や町田市・町田市民のニーズを踏まえ、以下の見直しを行う。生涯学習センターの講座事業の実施状況、地域活動団体等の現状及び社会情勢の変化に併せ、適宜検証を行う。

(1) 基本理念

現状
「あなたを励まし、地域を育てる」
課題
<p>●「地域を育てる」型の講座への重点化</p> <p>受講者数といった成果指標の向上を重視し、人気が高い教養型の「あなたを励ます」型の講座に偏っており、「地域を育てる」型の講座は十分に行うことができていない。</p>

(2) 学習領域について

現状、4つの領域に分かれており、「まちだの福祉」「環境学」「町田の歴史」「健康学」「人間関係・科学」「多摩丘陵の自然」の6講座を実施している。

現状	課題
<p><Humanity - 人間性></p> <p>【現行】 まちだの福祉、人間学</p> <p>【過去】 まちだ市民国際学、共に生きるまち・人、新しい家族論、みんなのまちづくり学、まちだ学、こころを伝える手話の世界</p> <p>【特別】 自分のまちのつくりかた入門、まちのデザイン入門、誰にもやさしい安全なまちを考える、映画と講演『アイ・ラブ・ピース』、もしものときの市民学、国際貢献と憲法九条、生涯学習コーディネーター養成講座</p> <p><Art & Literature - 芸術・文芸></p> <p>【現行】 町田の歴史</p> <p>【過去】 まちだの文芸・芸術、陶芸講座、まちだ市民史学、まちだの考古・考現学、町田の郷土史</p>	<p>●市民大学事業の学習領域の整理</p> <p>市民大学設立当初から、学習領域は網羅的な内容となっている。また、講座企画の際、4つの学習領域に配慮しようというバイアスが働き、講座が硬直化する傾向がある。元々、実施講座数の少ない「Art & Literature」、「Sports & Health」では特定の講座が長年実施され、実施講座の多い「Humanity」、「Technology & Science」では、逆に講座が競合する。新規講座を企画する際、既存の学習領域が障壁となる場合がある。(例：地域における青少年指導者育成など)</p>

<p><Technology & Science - 技術・科学></p> <p>【現行】 多摩丘陵の自然入門、環境学</p> <p>【過去】 くらしに生きる法律、オンライン講座、多摩丘陵学・自然論、まちとくらしの環境講座、まちだ市民環境塾</p> <p>【特別】 女性のための起業講座、インターネット入門講座</p> <p><Sports & Health - スポーツ・健康 ></p> <p>【現行】 “こころ”と“からだ”の健康学</p> <p>【過去】 心と体の元気学、夏休み器械運動教室、リズム水泳教室</p>	<p>●基本理念を踏まえた企画立案の難しさ 市民大学の主目的を「地域を育てる」こととした場合、「地域課題」の解決との関連性が低い学習領域における講座の組み立てが難しくなっている。</p> <p>●社会資源の変化 デジタル化の波が押し寄せる時代、学習のあり方に大きな変化が求められている。特に、市民全体のデジタルデバイド解消や、デジタルリテラシー向上が喫緊の課題としてあがっている。社会資源の変化へ対応したプログラムが必要である。</p>
---	--

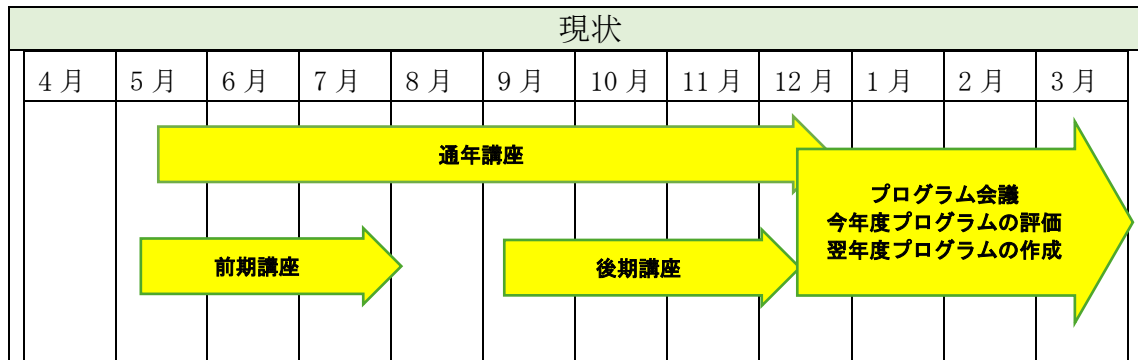
(3) プログラム委員制度・プログラム作成について

まちだ市民大学HATSプログラム委員選任要領（以下、選任要領という。）に基づき、プログラム委員の委嘱、プログラム会議等を行っている。

現状	課題
<p>【委員】 プログラムごとに、「学識経験者」と「まちだ市民大学HATS講座修了者」の計5人以内（うち修了者は2人以内）が委員に就任する。</p> <p>【組織】 プログラムごとに、プログラム会議を設置する。プログラム会議は、プログラム委員と職員で構成する。</p> <p>【役割】 委員はプログラム会議に出席し、プログラムの開発に関し、必要な助言、または提言を行う。</p>	<p>●検証期間の未確保 委員の任期が単年度のため、役割はプログラム作成が中心となり、検証結果を翌年度のプログラムに反映させにくい。</p> <p>●後継者不足 講座によっては同じ委員が何年も連続して務めており、後任を専任できていない。</p> <p>●市民意見の固定化 市民委員の選出が講座修了者に限られ、検証も講座修了者からのアンケートを中心に行われるため、受講者目線に偏った運営になっている。</p>

(4) 講座のサイクルについて

12月に後期講座が終了した後、修了者アンケートの集計を行い、その後、当年度プログラムの検証・評価と翌年度プログラムの作成を同時進行するというサイクルで運用している。



課題

●検証期間の未確保

現在は1年サイクルで、アンケート集計などの検証・評価と翌年度のプログラム検討を同時に実施しているが、事実上、検証期間を十分には確保できていない。

●プログラム委員への負担

本来、プログラム委員の役割は、プログラムの開発に関し、必要な助言、または提言をすることである。しかし、講師やファシリテーターを務めていただく等、プログラム委員が講座の実施にも関わり、通年で関与する運営になっており、委員への負担となっている。

●持続可能な任期設定

プログラム委員の任期は１２月～翌年１１月となっており、委員の変更が生じた場合、講座を企画・運営した委員とプログラムを評価する委員が異なることになる。

5 生涯学習センター運営協議会での協議

2023年2月に教育委員会が策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、「市民大学事業の再構築」に取り組むこととし、生涯学習センター運営協議会において意見を伺いながら検討を行った。

第7期生涯学習センター運営協議会の第2回から第9回まで計8回に渡り議題に挙げ、意見を伺った。

<p>主な運営協議会からの意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●社会のニーズやトレンドに合わせ、テーマを柔軟な見直しができるか（第3回） ●人を育てることを重視した幅広い講座構成が必要（第4回） ●学習領域を見直し、市民大学の目的を市民に分かりやすく伝えることが必要（第4回） ●事業の特性や特徴を踏まえた方向性の明確化が重要（第5回） ●学習領域の撤廃により、特定の領域に偏らないか、また事業数が減少しないか（第5回） ●プログラム委員に各分野のターゲット層を加え、検証期間を設ける必要性がある（第6回） ●内容が高齢者に偏っているため、市民からの意見収集を重要視する必要がある（第6回） ●評価基準は参加率だけではなく、人材育成の評価も必要（第7回） ●魅力的なプログラム作りは難しい。全体での議論することも必要（第7回） ●アンケート以外の効果測定基準の必要性（第8回） ●市民大学未受講者の参加機会として公募が有効ではないか（第8回）
<p>市民大学事業への反映</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●すべてのコースを「地域を育てる」型に重きを置いた内容とし、3年ごとに市民大学コースの見直しを行い、講座内容だけでなく、コース単位で柔軟な見直しができる仕組みとする ●プログラム委員の任期は1年間としていたが、原則同じプログラム委員に3年間継続依頼する運用とすることで、コース単位で適切な検証が行える仕組みとする ●6講座から4コースに減少するが、1コースあたりの回数を増やす ●コース選定においては、職員・プログラム委員の他、生涯学習センター運営協議会での意見も図り、全体で議論を行う仕組みとする <p>※以下の点については今回の再構築案には反映されていないが、今後検討していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ●内容が高齢者に偏っているため、市民からの意見収集を重要視する必要がある（第6回） ●評価基準は参加率だけではなく、人材育成の評価も必要（第7回） ●アンケート以外の効果測定基準の必要性（第8回） ●市民大学未受講者の参加機会として、公募が有効ではないか（第8回）

6 市民大学事業の再構築

(1) 基本理念

あなたを励まし、地域を育てる

(2) 事業目的

- ①地域活動を行う人材の発掘、成長できる場の提供
- ②地域活動を行う団体の更なる活性化
- ③個人で可能な地域活動、社会貢献活動の普及・啓発

(3) 学習領域

- ①学習領域を、「市民大学」が広範なテーマを網羅的に実施するという理念として継承していく。
- ②限られたリソースで、地域課題に対応していくため、これまでの各学習領域を毎年均等に実施していくスタイルを改め、運営に柔軟性を持たせる。
- ③従来の「あなたを励ます」部分（知識の習得に主眼を置いた講座）は、「地域を育てる」部分（地域で活躍する人材育成に主眼を置いた講座）との連動性に配慮した上で、知識の習得で完結してしまう講座については、市民大学以外の講座に振り替える。

(4) 新たなコース

「地域を育てる」型を軸に、「あなたを励ます」型の講座は、主に「地域を育てる」型の講座に繋がる内容を扱うことを前提とする。また、各種アンケート結果等を基に、地域づくりに主体的に参加する人材の育成や地域課題解決に寄与することが期待できる、以下のコースを新たなコースとして位置付ける。

コース名	目指す姿
健康福祉コース	<ul style="list-style-type: none"> ・自身でできる健康への取組に加え、地域活動による健康効果を理解することで、「自身の健康維持」と「地域活動による健康維持」双方の価値があることを知ってもらう。 ・地域活動等を行うための健康を維持し、児童・高齢・障がい等の様々な福祉に関する地域活動への参画を目指す。
自然環境コース	環境に関する現状を知り、町田市内で活動する環境保全団体等への参加や、個人でも可能な地域での環境に関する取組への参加を目指す。
歴史文化コース	町田市の歴史や文化等、伝承すべき知識を身に付け、調査研究・普及継承活動等を行える人材育成を目指す。
デジタルコース	<ul style="list-style-type: none"> ・急速に進むデジタル化の恩恵を誰でも受けることができるよう、地域でのデジタル機器に関する相談に乗れる人材を発掘、育成することを目指す。 ・地域活動や市民活動等における情報共有の効率化、コミュニティの結束強化、オンラインリソースの活用を主体的に行えるデジタル人材の育成を目指す。

※休止になる人間科学・人間関係学・法律・国際学については「地域を育てる」型の講座として再構築ができるか検討を行い、新たな講座の形を模索していく。

(5) 今後の市民大学事業の運用

- ① 3年周期でコースを見直し、市民ニーズ・社会ニーズに即した内容にカスタマイズする
- ② 各コースの見直しを行う際、生涯学習センターやプログラム委員だけでなく、アンケート等による調査・分析に加え、生涯学習センター運営協議会に意見を諮ることとする
- ③ 実施した検証を踏まえたプログラム構築ができるよう、原則3年間は同じプログラム委員に委嘱することとする

7 スケジュール

- 2025年11月 第10回生涯学習センター運営協議会での公表
11月 プログラム委員総会、次期プログラム委員委嘱
12月 各講座のプログラム会議
2026年 4月 各講座の実施（2028年度までは同コース）